



1 自己評価

I 評価結果

- ①「授業の充実と学力の向上」について・・・・・・ B
- ②「豊かな心の育成と人間関係づくり」について・・・・ A
- ③「望ましい教育環境づくり」について・・・・・・ A

II 分析・改善方策

②③については、保護者・地域の方々・支援ボランティアの方々により綿密で具体的な連携をとりながら、今後も教職員が一丸となって取り組んでいく。

①については、「楽しく分かる授業」を目指して授業改善を重ねるとともに、個々の児童に応じた指導方法の工夫をしていく。また、朝学習や家庭学習においても、今まで以上に基礎・基本の定着を図る内容を工夫していく。

2 学校関係者評価委員

- ・保田 成（連合町内会長）・内田 久士（町内会長）・姫田 貢之（町内会長）
- ・竹内 稔（町内会長） ・福山 辰成（青少年育成指導員）・多胡はづき（PTA会長）
- ・塚本さつき（成名幼稚園長）・松坂 里恵（PTA副会長）・大橋 淳子（PTA副会長）
- ・影山かおり（PTA副会長）・廣瀬 裕子（PTA副会長）

3 学校関係者評価

- ・全般的に落ち着いた教育環境の中で、児童は仲良く楽しい学校生活を送っている。学校支援ボランティアの取組も機能し始め、地域・保護者も協力的である。様々な活動や行事の支援を受ける中で、いろいろな方から智恵や工夫を学ぶことができている。
- ・「楽しく分かる授業」に向けて授業改善に努めるとともに、一人ひとりのつまずきや定着度を把握して、より一層の学力向上を図っていただきたい。

4 来年度の重点取組（学校評価を踏まえた今後の方向性）

1 学力の向上

①授業の充実

- ・校内研修や授業研究を行う中で、授業力向上に引き続き努める。
- ・研究会参加や講師招聘をするなどして、新しい情報や教育方法を得るように努める。

②基礎・基本の定着

- ・朝学習（算数ぐんぐん週間・読書週間・広がる言葉週間）の充実を図り、成果が目に見えるようにする。
- ・習得すべき漢字や四則計算の繰り返し練習を徹底して行い、定着を図る。

③家庭学習の推進

- ・家庭学習の意欲付けと徹底を図る。（家庭への協力要請も合わせて行う）

2 望ましい教育環境づくり

①生徒指導の充実

- ・当たり前のことが当たり前にできる児童の育成を引き続き行う。
- ・教職員間や保護者との連携を密にし、児童のよいところや伸びをしっかりと褒めたり認めたりすることで、自尊感情を高め自信を持たせる。

②保護者・地域との連携

- ・学校支援ボランティアの方々に支援のポイントを明確に示し、より実りあるものにしていく。
- ・学校支援ボランティアの活動にPTAも連携して取り組めるようにしていく。